

## 9 学校施設の改修・建替え

コーディネーター それでは、引き続きまして審議を進めたいと思います。外は、にわか雨と雷がすごくなってきましたが、もう少しお付き合いのほどお願いします。

ページは 26 ページと 27 ページでございます。後半の 9 番。学校施設の改修・建て替えについてでございます。3 つの項目について前回は議論をいたしました。

まずは、学校施設の耐震化についてのやりとりでございますが、耐震化につきましては 24 年度で全部完了とのこと、それで、天井や照明などの非構造部材と言いますが、これにつきましても、避難場所になる体育館を優先的に行い、29 年度までの 6 年間で実施する予定で、校舎についても内部改修の際にあわせて対応していくというような答えがございました。

続いて、学校施設の老朽化対策についてということで、本部からその耐震化をすれば老朽化対策にもなるのかという問いに対しましては、この耐震化については、直接長寿命化にはつながらないという答えがございました。また、現在、築 50 年以上の学校というのは 19 棟でございますが、現在 40 年以上というのが 129 棟もあると。そういうことから考えると 10 年、20 年後の改築の時期にそれを迎える建物が、急激に増えてしまうということが考えられると。行革本部からは、それでは予算確保も大変難しいんじゃないかという質問がございまして、それに対して、教育委員会のほうからは、これまで優先的に耐震補強工事というものに力を入れてきた。これが、ただいまのご説明のとおり 24 年度完成するので、今後は、老朽化改修に移行することで財源を確保したいというような説明がございました。

行革本部からは、前倒しを含めて財政負担の平準化が重要になるのではないかという問いがございましたが、所管局とすると、国の補助事業ということもございまして、この補助対象が前倒しでは難しいということがございますので、改修工事を早めに実施して、建て替えの時期を少しでも遅らせて長寿化を柱に平準化というのを考えていきたいというお答えがございました。

それから、今後の学校施設の整備のあり方につきましては、これから少子化に伴って児童・生徒数の減少が見込まれると。規模の縮小も考えるべきではないかという問いに対しまして、現状は、さいたま市の場合は、児童・生徒数は横ばいであるから、当面は現在の規模を維持することが必要になると。今後は、少人数学級という制度も導入される考えもあるので、普通教室を増やすことも想定しなければならないという答えがございました。それから、長期的な少子化、今、横ばいだけでも、将来を見据えると少子化なので、抑制的な建て替えを検討する必要があるのではないかと。それから、高齢化が進展する、そういうことを考えると、高齢福祉の用途に転換することも必要なのではないかと問い掛けがございまして、所管局としては、現時点では、建て替え時点の、生徒数に見合った規模にせざるを得ない、改築なんかそれにせざるを得ないということがございますので、今後については、高齢福祉施設や生涯学習施設等の将来の転用改修を念頭に置いた設計、こういったことには重要な検討課題として認識しているという答えがございました。いずれに

しても、今後も公共施設マネジメント計画に沿ったかたちで検討していきたいというやりとりがございました。

こうしたやりとりを踏まえまして、市民委員の皆さんからのご意見としては、学校施設の改修・改築は積極的に行ってほしい。教育部門が充実している市は、人口も安定しており、税金の増加にもつながると思う。従来の学校施設の考え方から、今後は、少子高齢化、避難場所など多目的な地域コミュニティとしての役割が求められている。それから、少子高齢化が進む中で、地域住民がお年寄りから乳幼児まで集えるような学校プラス施設、地域の要となるような建物ができたらいいと思う。

それから、旧市ごとの通学区域を見直すなどして、近隣の学校3校を2校にまとめるなどの統合ができるところがあるのではないかと。それから、小中一貫校として2つの学校を1つにまとめれば必要なくなったところは売却できるので、これを財源にできるのではないかとというようなご意見をいただきました。

それから、市民モニターの方の主なご意見でございますが、スピーディーな老朽化対策、長寿命化計画を早急に進めてほしい。それから、施設の複合化は賛成でとても興味深い。利便性の向上、公共施設の利用率の向上にもつながる。それから、少子化の現代では、学校のまとめという方法が良いのではないかと。モデル校が、最新設備を整備される一方で、古い学校は、子どもたちの環境、教育環境に開きが出るというふうに考えるというようなご意見をいただきました。

また、傍聴された方からは、将来的に財政面も含め大きな問題になると感じた。続いて、学校を工事する際に、保育所や高齢者の施設が併設できるように関係する部署と設計前によく話し合うべきである。学校の複合化は、ぜひ、実行してほしいというようなご意見をいただきました。

以上が、第1部での議論の概要と皆さまのご意見でございました。

引き続きまして、事業所管部局によります見直し内容の案につきまして、説明をお願いいたします。

所管局 はい。それでは、事業所管部局から見直し内容についてご説明する前に、きょう、出席しております職員を紹介させていただきたいと思っております。教育委員会管理部長をしております川本と申します。第1部でもお世話になりました。よろしくお願いいたします。

所管局 学校施設課長の原と申します。よろしくお願いいたします。

所管局 学校施設課課長補佐の大塚と申します。よろしくお願いいたします。

所管局 同じく課長補佐の土井と申します。よろしくお願いいたします。

所管局 それでは、私のほうから見直し内容についてご説明をいたします。学校施設の改修・建て替え事業につきましては、前回の審議の際にも学校施設の老朽化が進行しているという、そういった現状についてお示しをいたしました。そうした状況を踏まえまして、計画的な改修など老朽化対策の必要性についてご了解がいただけたというふうにご考えてお

ります。

今回挙げました見直し内容につきましては、前回の事業説明書の中で、今後の重点方針として挙げた3点と基本的に同様の内容となっております。

まず、1点目が、学校施設の老朽化に対応した改修および改築に係る中長期的計画の策定です。屋上防水や外壁塗装などの大規模改修を適切な時期に実施し、建物の長寿命化を図ります。また、こうした長寿命化により改築時期の延伸を計ります。

学校施設の改修および改築計画につきましては、さいたま市の公共施設全体の整備、改修、方針、管理運営についての長期的なあり方を示した「さいたま市公共施設マネジメント計画」との整合を図ってまいります。また、現在、文部科学省の「老朽化対策検討特別部会」において、全国的な課題となっている今後の学校施設のあり方に関する調査・研究が行われておりまして、老朽化した学校施設の再生整備や推進方策、長寿命化などがその検討内容ですので、これを参考として改修・建て替え計画に生かしてまいりたいと考えています。

この計画において、屋上防水など大規模改修工事を20年から25年の適切な周期で実施することで建物本来の機能を維持し、改築時期の延伸を図ってまいります。これまで60年から65年程度とされている建物の耐用年数を70年とか建物の状況によっては80年以上に延長することができれば、施設の更新に要する多額の経費の平準化が可能となりますので、長寿命化方策についての検討が重要な課題となります。

2点目が、防災機能の強化とバリアフリー化、省エネルギー化です。学校施設は、児童生徒の学習、生活の場であるだけでなく、地域住民にとっては災害時の避難場所ともなる重要な施設ですので、防災機能の強化が求められているところでございます。中でも、学校の体育館は、主たる避難場所として使用される可能性が高いと思われまますので、体育館の避難場所としての機能整備を目的として天井材や照明器具などの落下防止、窓ガラスの飛散防止対策など非構造部材の耐震化を図ってまいります。

また、高齢者や障害のある方にも支障がないよう体育館トイレの洋式化などの改修や入り口のスロープ設置といったバリアフリー化も合わせて進めたいと考えております。また、体育館に限らず校舎も含めた学校施設全体の質的向上に係ることではございますが、老朽化に対応した大規模改修工事に合わせてエレベーターやスロープ、手すりの設置などのバリアフリー化の推進も必要だと考えております。そのほか、LED照明ですとか太陽光発電、これまで以上にそういったものの導入を拡大することで省エネルギー化の促進をしてまいります。

こうしたバリアフリー化や環境に配慮した整備は、障害のある児童生徒への配慮として重要であるとともに、地球温暖化など環境問題に関する教育的効果にも寄与するものと思っております。

3点目は、将来を見据えた学校施設整備です。学校施設は、地域住民にとって最も身近な公共施設として図書館や公民館など他の教育施設や放課後児童クラブなどの福祉施設との複合化を進めることで地域の拠点施設、コミュニティの核としてより重要な役割を果た

すことができると考えられます。そのためには、学校施設整備に関しての方向性を示した文部科学省の施設整備基本方針、施設整備基本計画を踏まえるとともに、さいたま市の公共施設マネジメント計画との整合を図りつつ改築計画の検討を進めてまいります。

また、今後の少子化、高齢化社会に対応した学校施設とするために、将来の転用を考慮して柔軟な設計を採用することも必要であると考えています。

以上の3点を学校施設の改修・建て替えの基本的な方針として計画の策定を進めてまいります。説明は以上でございます。

コーディネーター ありがとうございます。それでは、ただいまの説明に対しまして、行革本部から何かございましたらお願いします。

行革本部 はい。耐震化が今年度で完了するというので、これからはいよいよ本格的に老朽化の対策に移っていくということでしたけれども、その計画を作るに当たって、先ほど長寿命化が柱になるというお話で、その考え方は、現在60年から65年といわれている建物の寿命を70年から80年ぐらいに延ばしていくというお話がありました。

先ほど橋梁の話の中でも、100年ぐらいもたせるという話がありましたし、文部科学省で、今、検討されている内容の中でも100年以上もたせていこうという考え方もあるというふうに聞いていますので、そうなるとうまい前提条件も変わってくるように思いますが、その点についてはいかがでしょうか。

所管局 はい。確かに今後の建て替えに伴う大きな財政負担軽減が必要ですし、負担を平準化していかなければならない。そういうことを考えますと、学校施設についてもできるだけ長寿命化を図っていかなければならないというのは当然だと思います。今、文部科学省の話が出ましたけれども、中に確かに100年以上というようなことを念頭に置きたいということも出ております。ただ、中間報告の段階でして、具体的な施策、どういったかたちでそういう共有化を図れるのかといったものがまだ出ておりませんので、できる限りですね、計画の中にそういった長寿命化の方策が取り込めるように文部科学省の検討内容を参考にして考えていきたいというふうに考えております。

行革本部 学校の複合化については、市民委員、市民モニターの皆さんも非常に賛同のご意見をいただいているところですが、多分、皆さんも感じているかもしれませんが、学校の複合化は非常にいいことだと思いますけれども、その半面ですね、学校を建て直すときに、うちのそばの公民館を併設すると、そばにあった公民館がなくなる、これは、併設ということは、そこをなくして学校と一緒にするわけですね。あと、保育園、保育園を併設すると既存の保育園がなくなるということになると、非常に総論は賛成だけれども各論ではいろいろな反対が出てくる、そういうことは想定されると思いますけれども、これは教育委員会だけの話ではないと思いますが、そこについてご心配している部分は当然ある

と思うんですけども、この点について、今、どのようなお考えを持って取り組もうとしているかお伺いしたいと思います。

所管局 はい。学校施設を改築する際に、どのような施設を取り込んで複合化することが望ましいのかということについては、当然、事前に十分な検討ですとか地域との調整が必要になると思います。

学校に地域の公共施設すべてを集約するのがいいかということでは決してないと思いますし、それぞれの地域に公共施設の配置状況ですとか住民の年齢構成ですとかいろいろ地域の特性があると思いますので、そういった地域ごとに、その学校にどういった複合化する施設を取り込むのがふさわしいのかということは、今後の検討課題として、十分に考えていかなければならないと、そのように考えております。

コーディネーター それでは、行革本部の見解につきまして、説明をお願いします。

行革本部 はい。それでは、今の質疑を踏まえまして3点見解を述べさせていただきたいと思います。

1点目は、最初にやりとりをさせていただきました100年以上耐用年数を延ばすということも含めて、今、文部科学省の中で検討されている内容も十分に踏まえた上での改修・改築の計画策定をお願いできればと思います。

それから、2点目は、2つ目の見直し内容の中で、今後バリアフリー化や省エネルギー化を進めていくというお話がありましたけれども、これについては、やはり、追加的にまたお金のかかる、コストのかかる話だと思いますので、特に省エネルギー化については、光熱費を削減という意味でランニングコスト、管理コストの削減につながる面もあると思いますので、そういったコスト面での検討というのも十分に進めていただきたいというふうに思います。

それから、3点目が、最後にやりとりをしました複合化の話でございまして、これは、やはり、十分な地元との調整。合意形成が必要になってくるものだと思いますので、そこに十分留意をして進めていただきたいというふうに思います。

以上、3点でございます。

コーディネーター ありがとうございます。ただいまの行革本部の見解を受けまして、川本管理部長さんからご意見等がございましたらお願いします。

所管局 はい。行革本部ならびに市民モニターの方、市民委員の方から貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。教育委員会としては、この問題につきまして、今、所管課長がお話ししたように、教育委員会としても先ほどお話をさせていただきましたが、耐震化が今年度24年度で終わる予定でございます。今後は、この学校施設の改修・建て替

えが大きな教育委員会の課題の1つというふうにとらえており、この問題について積極的に事業を進めていかなければいけないというふうには考えております。

行革本部のほうから、今、3点についてお話をいただきました。繰り返しになりますけれども、長寿命化、複合化等々につきましても、当然、そういった計画的なもの、構想的なもの、ビジョンの中に取り込んでいかなければいけないというふうには考えております。ただ、第1部の前回の審議の中でもお話をさせていただきましたが、対象となる施設が非常に多いさいたま市の公共施設の中で半数以上が学校施設だということもあり、膨大な事務量、それから、先ほど来からお話がありましたけれども、財政的な負担、これを平準化していかなければいけない等々の大きな課題。それから、あと、複合化についても、今、行革本部長さんのほうからもお話がありましたけれども、施設がなくなるということではなくて、あくまでも学校施設と福祉、コミュニティ、そういったものの一体化をして、合わせて学校と今までなかった機能というのでしょうか、メリットというのでしょうか、そういうものをアピールすることによって、決して、例えば保育園がなくなるんだよとか、公民館がなくなるってということではなく、機能アップをして、より地域のためのコミュニティの核だとか活動の拠点になるとか、そういったものを全面的に押し出し、市民の方にご説明しながら事業を進めていかなければいけないというふうには考えております。事業につきましても、繰り返しになりますけれども、国の動向、それから、さいたま市の公共施設マネジメント計画、こういったものが全庁的な中で進められておりますので、当然、教育委員会としては単独で動くということではなく、全市的な中できちんと位置付けをして進めていかなければいけないというふうには考えております。ただ、その進めるときに当たって、今、行革本部、それから、市民モニターの方、市民委員の方からもいただきましたご意見を踏まえて、事業を、今後、進めていきたいというふうには考えております。以上です。

コーディネーター ありがとうございます。それでは、ここで議論を終結したいと思います。皆さまには、意見シートのご記入をお願いします。何かご意見等はございますでしょうか。市民モニターの方も含めまして、何かご意見ございますか。どうぞ。

市民委員 学校の耐震化というのはですね、私も大里小学校のそばに住んでいますが、今年もやっています。前にもやられて、耐震化工事というのはこうやるんだなとよく分かりました。それでですね、先ほどの説明の中で、バリアフリー化ですね、出入り口ってというのは結局スロープだろうと思うんですけども、私の聞き違いかと思いますが、エレベーターうんぬんと確かおっしゃったかなという気がするんですけども、これは、各学校にエレベーターを設置するという意味ですか。1機作れば、これで何千万かかるかなと思うんですけども、これも必要かなと思うといえばしょうがないんですけども、これは、今後は全部付けていく予定でいらっしゃるのでしょうか。

所管局 今現在ですね、エレベーターとかの設置については、校舎の建て替え、そういっ

たときに限られております。今、障害をお持ちのお子さんとかの入学とかそういったことについても多くなっておりますので、機会を見てできる限りエレベーターの設置が可能であれば進めていきたい、そういうふうに考えております。ただ、おっしゃったとおり、非常に1機付けるだけでも2千万とか3千万とかといった大きな費用がかかりますのですぐには進まないと思いますけれども、機会をとらえてできる限り数は付けていきたいと、そういうふうに考えております。

コーディネーター ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。はい、どうぞ。

市民委員 質問ですけれども、さいたま市には、例えば著名な建築家が造った木造建築だったりとか、木造に限らないんですけれども、何か、そういう歴史的に価値のあるような小中学校とかっていうのはあるのでしょうか。

所管局 学校施設の中にはそういった重要なものというのはございません。

コーディネーター よろしいですか。はい。それでは、この辺でこの事業の審議を終了します。この問題につきましては、学校、先ほど橋りょうの話もありましたけれども、それに限らずですね、公共施設につきましては、今後、建て替え等出てきますので、長寿命化とか複合化というようなことが全体的に議論になってくると思いますが、ここで公共施設全般を担当しています行革本部長のほうから何かございましたらお願いします。

行革本部 すみません。ちょっとお時間をいただいて。今、橋りょうとですね、学校のお話をさせていただきました。今、公共施設マネジメント計画というのをさいたま市が作って、これから進めようとしております。前回お配りしましたが、漫画でさいたま市の公共施設マネジメント計画ということで、分かりやすく埼玉大学の漫画団というグループに協力いただいて作ったものですが、こんな取り組みを始めるということで皆さんにPRをしております。

今、いただいた貴重なご意見、こういうものも参考にしておりますけれども、特に今日お越しいただいてる皆さまに、来週のお話で毎週土曜日使うのかというお話をされると困るんですけれども、来週土曜日に、市民会館大宮、すぐそこにありますね、市民会館大宮の小ホールで「市民とともに考えるこれからの公共施設」という、公共施設マネジメントのシンポジウム、東洋大学の根元先生、この第一人者ですが、その方とこの計画を作っていたいただいた公募で参加いただいた市民委員ですとか、それから、さいたま市の清水市長のパネルディスカッションとかそういうものをさせていただく予定になっております。

もしよろしければ、来週25日土曜日の2時から市民会館大宮の小ホールで開催しますので、もし、今日のお話を聞いて興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひご参加をい

ただきたい、こんな取り組みをしておりますので、よろしく願いいたします。すみません、時間いただきまして。

コーディネーター はい。ありがとうございました。それでは、学校施設の改修・建て替えにつきましては、終了させていただきます。

それでは、最後の次世代自動車スマートエネルギー特区につきましては、5時17分、17時17分から開始したいと思いますので、その間休憩をお願いします。どうもありがとうございました。

(了)